

国立病院機構熊本医療センター

No.170



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

血管連続撮影装置が更新されました



血管連続撮影装置を使った検査の様子

当院では、平成12年4月1日にシネフィルム対応の心臓専用血管連続撮影装置が導入され、フィルムレスにバージョンアップされていました。年間約1,000例の心臓カテーテル検査、300例の経皮的冠動脈形成術、30例の経皮的血管形成術、80例のペースメーカー植え込み術を施行するようになりました。最近、機械の老朽化が進み、検査、治療に支障をきたすようになりましたので、平成23年7月1日に心臓専用血管連続撮影装置（東芝社製 INFX-8000C）に更新されました。

INFX-8000Cは、最新の心臓専用フラットパネル血管連続撮影装置で、画像の解像度が格段に改善しましたので、造影剤の使用量が少なくなりました。また、操作性も非常に向上し、被曝線量も軽減しました。6面の専用モニターは、電子カルテと連携しており、CTの画像等も表示でき、以前に比べて、カテーテル治療時に、さらに造影剤の使用量を少なくでき、被曝線量もさらに軽減できるようになりました。

緊急時は、頭腹部兼用血管連続撮影装置もありますので、2台並列で検査、治療を行っています。さらに大動脈バルーンポンピング装置が1台増設（計5台）、血管内超音波装置が1台増設（計2台）され、6月14日からヘリポートも運用されるようになりました。最新の心臓専用血管連続撮影装置に更新され、周辺機器、設備も整備されましたので、今後、より多くの症例、重症の症例にも迅速に対応できるようになりました。

（循環器内科医長 藤本 和輝）



血管内超音波装置



血管連続撮影装置



「ゆっくりしつつ、時には迅速に」

医療法人 仁木会
ニキハーティーホスピタル
院長 寺岡 和廣

ニキハーティーホスピタル院長の寺岡和廣と申します。私が貴院に勤務したのは、もう20年以上前になります。村山英一神経科精神科医長の下、精神科疾患はもとより神経疾患、さらに他科入院中の患者様のコンサルテーション・リエゾンまで丁寧にご指導いただきました。また当時の国立病院は県営藤崎台球場で内科系と外科系にわかれて野球をする時間的余裕があったようで（今ではとても考えられないでしょうが）、その際先発ピッチャーを任せられ、河野文夫先生に球を受けていただいたことが昨日のように思い出されます。この場を借りて、お二人の先生に深謝致します。

さて、当院の紹介をさせていただきます。当院は明治時代に創業し、現在精神病棟98床と精神療養病棟102床の計200床を有する精神科単科病院です。昭和39年、仁木病院として現地の熊本市月出に移り、平成19年に現病院名に変更致しました。常勤医師は仁木啓介理事長をはじめ6人が勤務しています。当院の特色は、統合失調症、気分障害などの精神疾患治療はもちろん、PTSD（心的外傷後ストレス障害）

にもっとも効果的で、注目を集めている「EMDR（眼球運動による脱感作と再処理）」という特殊治療、また公的団体や企業にEAP（従業員支援プログラム）として講演や相談業務を提供しているほか、癌・緩和ケアにも力を注いでおります。

22年8月には新外来棟が完成し、受付が自動化され、診察を待つホールの壁面は緑に包まれ、リラックスできる空間を提供できるようになりました。同時に電子カルテ、自動会計システムも導入し、診察、検査、精算、薬の受け取りまでの流れがスムーズになりました。

九州新幹線が全線開通し便利になりましたが、精神科医療の本質は、速さよりもゆっくりと時間をかけて患者様の訴えに耳を傾ける事だと思えます。しかし患者様の中には、急性の身体疾患を発症したり既存症が悪化したりする方も数多くおられ、迅速な治療が必要と判断されることがあります。その時に、いっお願いしても快諾・治療をしていただける熊本医療センターの存在は大きな支えとなっています。

貴院の益々のご発展と職員の皆さまのご健勝を祈念申し上げるとともに、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



写真左より、副院長 岩淵先生、診療部医長 林先生、理事長 仁木先生、院長 寺岡先生、技術診療部医長 宮里先生、高橋先生

第31回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会を下記の要領で開催します。先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数のご参加をお待ち申し上げます。なお、連絡会の後に意見交換会も予定しております。ご希望の方は、事前に郵送しますはがき又はFAXにてお申し込み下さい。なお当日受付でも申し受けます。

日時：2011年9月6日(火)午後7時～午後9時

会場：熊本県民交流館パレア（鶴屋東館）

内容：1. 開放型病院連絡会総会（10階パレアホール）

1) 災害医療支援報告 2) 病院からのお知らせ 3) 総合討論

2. 意見交換会（7階 鶴屋ホール）

意見交換会の会費1,000円は、当日受付で申し受けます。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課

電話 096-353-6501 内線5690（高倉・横尾）

住所 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

平成23年度第1回開放型病院運営協議会開催されました。

平成23年度第1回目の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が平成23年7月4日（月曜）午後7時より当センター会議室で開催されました。協議会には委員として熊本市医師会より医師会長の福島敬祐先生、副会長の加来 裕先生、担当理事の田中英一先生、家村昭日朗先生がご出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、野村統括診療部長、片渕地域医療連携室長が出席いたしました。院長より、医師会長はじめ医師会委員の先生方に日頃の御礼を述べ、続いて福島委員長よりご挨拶をいただきました。議事に移り、事務局より開放型病院利用状況、開放型病院登録医数、訪問医師数、共同指導数などを報告しました。次いで第30回開放型病院連絡会（平成23年2月26日）の参加者数、「くまびょうニュース」の発行状況について報告を行いました。第30回連絡会には多数の参加があり、ご参加の先生方には改めて御礼申し上げます。次の協議事項では、平成23年度第1回（通算31回）開放型病院連絡会の開催について協議され、平成23年9



月6日（火曜）午後7時より熊本県民館パレアホール（鶴屋東館10階）で開催されることが決定しました。内容は、総会では東日本大震災医療支援報告、病院からのお知らせ、総合討論などを行うことになりました。そのあと7階鶴屋ホールにおきまして懇親会を予定しております。開放型病院連絡会に多数の先生方、スタッフの皆様がご参加いただきますようお願い申し上げます。（副院長 河野文夫）

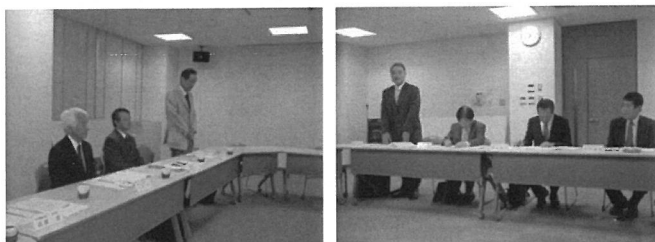
平成23年度第1回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が開催されました

平成23年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が7月11日（月）午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、片渕地域連携室長、高橋救命救急部長、中島歯科口腔外科医長が出席しました。

清村会長、池井院長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率の議題では中島医長から、紹介率は4月が院外38.1%、院内27.1%と合わせて65.2%となっていること、また新患数が増加していることが報告されました。

当院の歯科救急医療についての議題では、高橋部長より今年上半期は79件の歯科口腔外科救急症例があり



増加傾向にあること、義歯などの誤飲が毎月あることが示されました。

次に救急蘇生講習会について、今年度の開催が11月10日（木）であることを確認し、直前の混乱がないように1週間前までに参加者の確定を行うことを再度、申し合わせました。

続いて河野副院長から、平成23年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が9月6日（火）午後7時から、くまもと県民交流会館にて開催されることが案内されました。

その他として歯科医師会側からメディカルスタッフ向けの口腔ケア研修会の今年度の開催についての要望があり、今後協議していくことを確認致しました。また、清村会長から言語聴覚士の受け入れについての質問があり、9月から当院に1名配属されることと、摂食嚥下リハビリチームが発足し、受け入れ態勢を整えていることが報告されました。歯科医師会として抗凝固剤などの歯科治療にかかわる新薬の情報が欲しいという要望もあり、情報提供をしていくことを案内し、閉会となりました。

（歯科口腔外科医長 中島 健）

第25回臨床薬理セミナーが開催されました

梅雨もあけやらぬ7月3日(日)に当院地域医療センターにおいて、熊本県・市医師会、病院薬剤師会、熊本医療センター共催による臨床薬理セミナーが開催されました。本セミナーは医師、薬剤師を対象とした最新の医療に関する情報を提供する場として毎年1回この時期に開催されており、県内において高い評価を受けています。昨年は糖尿病をテーマとしましたが、今年は漢方と緩和医療をテーマとし、漢方の薬理を昭和大学病態化学研究室教授の田代眞一先生に、がん治療と漢方処方をがん研有明病院消化器内科部長の星野恵津夫先生に、緩和医療と漢方処方を久留米大学医学部先進漢方医学講座准教授の恵紙英昭先生に講義して頂きました。当日参加も含め160名(薬剤師150名、医師5名)が受講となりました。

最初の講義では熊本大学医学部附属病院の薬剤部長である齊藤先生に座長を務めて頂き、「漢方薬の最新薬理」という演題で、なぜ漢方が効くのかを薬物の体内動態に注目して講義を頂きました。体内の細菌叢によって漢方薬の主成分が活性体になる様子を実験結果をもとに解りやすく解説して頂きました。

次の講義では熊本医療センター研修部長の清川先生

に座長を務めて頂き、「漢方で劇的に変わる癌治療」という演題で、がん治療における補剤の使い方を丁寧に講義して頂きました。西洋医学的癌治療によって引き起こされた副作用や後遺症を如何に軽減するのかということについて、「癌証」という状態を含めて漢方の使い方を詳しく解説して頂きました。CT画像などによる「価値ある延命」の結果を見せられて会場は驚きの雰囲気に包まれていました。

最後の講義では熊本医療センターの血液内科医長である榮先生に座長を務めて頂き、「癌緩和ケアと漢方の関わりー漢方に期待するものー」という演題で、がん患者の気持ちをどのように捉えて治療の方法を考えていくのかということについて具体的に説明を頂きました。抑うつ気分の解消方法としての漢方の効果、全人的治療における漢方の位置づけを明確に説明して頂きました。また、緩和医療における漢方の使い方とチーム医療の実践について分かりやすく説明を頂きました。薬は服用されて初めて効果を得ることができるということをチームとして取り組む方法は感銘を受けました。

(薬剤科長 真鍋 健一)

新任職員紹介



麻酔科

ふるしろう ちよこ
古庄千代

平成23年7月1日より、麻酔科で勤務させて頂くことになりました古庄千代と申します。平成12年に大分

医科大学を卒業後、熊本大学附属病院で7ヶ月間研修、その後済生会熊本病院に8年間、熊本大学附属病院に2年間勤務し、今回熊本医療センター勤務となりました。当院では、緊急手術に迅速に対応するため、他科の医師とも連携し情報交換をしっかりと行っていこうと思います。また、安全な麻酔管理を第一とし、より質の高い麻酔管理を目標に努力していこうと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



救命救急部

えら ちよし
江良正

平成23年7月より救命救急センターにて勤務となりました江良正と申します。

平成21年に熊本大学医学部を卒業後、熊本大学病院

にて2年間の初期臨床研修を終え、当院にて勤務させて頂くこととなりました。医師としては3年目であり、大学外での勤務は当院が初めてとなります。

救命救急センターにて、多数の救急症例の診療に当たることを楽しみにしております。3年目と若輩ですが1日でも早く当院での勤務に慣れ、救急の現場にてお役に立てるよう努力してゆく所存です。

開業医の先生方に御迷惑をかけることも多いかと存じますが、何卒宜しくお願い致します。

病棟紹介〈5〉

5 西病棟

5西病棟は泌尿器・腎臓内科、血液浄化センター（20床）・救急科の患者さまの治療、看護を行っています。泌尿器科は、悪性腫瘍の治療を中心として手術療法、化学療法、放射線療法、ホルモン療法と治療内容は多岐にわたっています。皮膚、排泄ケアの認定看護師を中心とした尿路変更術後のストマケア指導は充実しており、当院で尿路変更手術を受けた患者さまで構成される患者会が年に2回開催され、医師、看護師を交え活発な意見交換がされています。腎臓内科は、人工透析を必要とする腎不全患者の治療を中心として、血液透析、腹膜透析を一日20名以上の患者さまが受けられ、透析件数は増加の一途をたどっています。また、血液浄化センターは透析療法従事職員の研修指定施設にもなっています。救急科は、多くの合併症を有する患者さまや、長期の呼吸器管理を必要とする患者さまの後方病棟としての役割を担っています。医師、看護師、臨床工学技士のチームワークを大切に、患者さまのニーズをくみとり、安心して質の高い医療が提供出来るように日々努力しています。

（5西病棟師長 川内 サユリ）



5西病棟のスタッフ



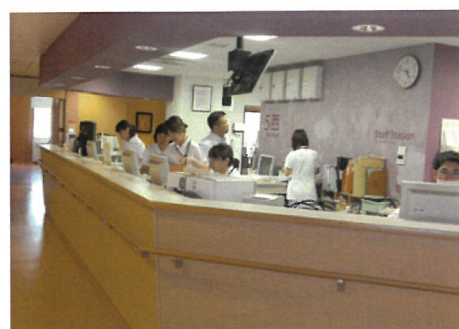
臨床工学技士



透析室入口



透析室内



スタッフステーション



5西病棟内



ダイルーム

2011 診療科紹介 (39)

眼 科



医長
青木 浩則
眼科一般、角膜疾患、
眼感染症
日本眼科学会認定専門医



医長
筒井 順一郎
眼科一般、角膜疾患
緑内障
日本眼科学会
日本角膜移植学会
日本緑内障学会



医師
平島 みほ
眼科一般、白内障
網膜硝子体
日本眼科学会

診療内容と特色

眼科は感覚器センターの一部として皮膚科や耳鼻咽喉科をはじめ、他の診療科と協力しつつ診療を行っています。

2011年7月現在眼科医3名で診療しています。診察は小児から高齢者に至る眼疾患に対応いたします。

視能訓練士の採用に伴い斜視・弱視の診療も行っております。

手術はもっとも多い白内障の治療に加え網膜硝子体疾患、緑内障、斜視の治療も行っております。

入院病棟は7階東病棟です。歯科、形成外科、耳鼻科、皮膚科との混合病棟です、頭部・顔面に関する疾患に関して豊富な知識を持ったスタッフがそろっています。

また、入院患者のほぼ100%にクリティカルパスを使用して効率的な医療の実行に勤めております。

総合病院の眼科の特色を生かして、全身疾患に合併する眼疾患の入院治療および精神疾患を有する患者や透析の必要な患者の入院手術にも取り組んでいます。

今後も良質な医療を提供できるよう努力してまいります。

診療実績

ここ数年入院患者数と手術件数は年に10%程度増えております(下表)。

白内障の平均的な在院日数は片眼で4日、両眼で6日程度でした。

白内障手術に関しましては患者の病状等を考慮し可能であれば日帰り手術を含めた短期入院での治療も行っております。

表 眼科患者数及び手術症例数

	外来新患者数	新入院患者数	手術症例数
2008年度	939	361	466
2009年度	910	376	520
2010年度	858	436	616

研究実績

2000年より政策医療ネットワークの構築に伴い国立病院機構東京医療センターと協力して眼科診療におけるクリティカルパスについての検討や白内障のQOLにおよぼす影響、EBMにもとづくドライアイについての共同研究に参加しました。

また、ドライアイ治療に関する治験への参加などの実績があります。今後も当院の治験センターを利用して積極的に臨床試験に取り組むと考えています。

ご案内

外来は月曜～金曜の毎日診療をしています。ただし、火曜日と木曜日は手術日のため担当医1名のみが診察にあたります。

できましたら月・水・金曜日の受診をご指導いただきますようお願いいたします。

休日や時間外の患者様には24時間体制でオンコールシステムをとり、救急医療に当たっています。眼科領域の疾患に関してのご相談などございましたらいつでもご連絡ください。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ56回

「VCMの薬物血中濃度解析における予測精度の評価」

薬剤科 平木 洋一



国立病院機構熊本医療センター研究助成金を受け、臨床研究部特殊疾病研究室長 武本先生のご指導のもと、Vancomycin (VCM) の薬物血中濃度解析における予測精度の評価の研究に取り組ませて頂いております。薬剤科では、VCMの適正使用を目的に、TDM (therapeutic drug monitoring: 血中薬物濃度モニタリング) を実施しています。TDMとは、VCMが体内から消失する速度や、半減期などの患者個々のパラメータを計算し、患者個々に適した投与量や投与スケジュールの推定を行うことです。これにより患者の副作用を抑制し、有効な治療効果が得られますが、AUC (area under the curve: 血中濃度曲線下面積) とMIC (minimum inhibitory concentration: 最小発育阻止濃度) により示されるPK (pharmacokinetics: 薬物動態学)/PD (pharmacodynamics: 薬力学) を明らかにし、投与量の調整が必要であるとされています。現在、我々はベイジアン法により算出されたベイズ推定パラメータを用い、患者個々の投与设计を行っています。その予測精度についての評価は国内外においても行われておらず、予測した投与设计がPK/PDとなるAUC/MICの条件を満たしているか否かは不明です。そのため、ベイズ推定パラメータの予測精度を明らかにし、予測された値が、临床上で有効なAUC/MICの条件を満たしているかどうかの検討を行うことは、VCMの有効性や適正使用につながり、非常に有用であると考えられます。本研究では、MRSA感染症の治療でVCMの投与を受けた患者について、Yasuharaらが報告したVCMの日本人母集団平均パラメータを用い、初回採血濃度からベイズ推定された患者個々のパラメータを算出し、このパラメータを用いて、次回採血時のVCMの血中濃度の予測を行い、実測値と比較することで、ベイズ推定されたパラメータの予測精度について検討しています。また、基本的な予測法であるPPK (母集団薬物動態) 法による予測精度と比較も行って

います。結果として、PPK法のRMSE (root mean squared prediction error: 予測の精度) が $3.21 \mu\text{g}/\text{mL}$ であるのに対し、ベイジアン法を用いた予測精度は $1.74 \mu\text{g}/\text{mL}$ と非常に良好な予測精度であると考えられます (Table 1.)。また、PPK法と比較してベイジアン法による予測では、ME (mean prediction error: 偏り) およびMAE (mean absolute error: バラツキ) も良好でした (Figure. 1)。研究1年目では先発品のVCMについて検討を行い、今後は後発品のVCMについての予測精度についても検討していきたいと考えています。

Figure.1

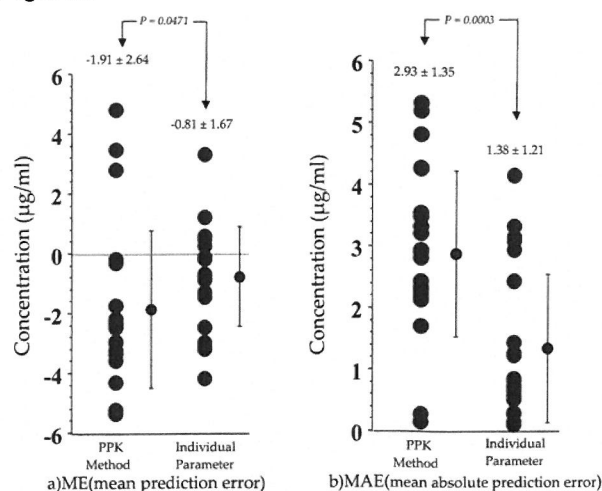


Figure. 1. ME and MAE of the PPK Method and Calculated Using Individual Parameters at the Second Blood Sampling.

ME: mean prediction error (as an index of bias), MAE: mean absolute prediction error (as an index of accuracy). The prediction precision of the PPK Method and predicted concentration using individual parameters were compared using paired t-test.

末筆ではありますが、研究助成の機会を与えて下さいました、臨床研究部長 芳賀先生に心より深謝いたします。

Table1.

Table 1. Predictive Performance of Calculations at the Second Blood Sampling Using Individual Parameters, Bayesian Method and the PPK Method, Based on Japanese Population Pharmacokinetic Parameters.

Prediction methods	Measured Concentration Mean (\pm S.D.) ($\mu\text{g}/\text{ml}$)	Predicted Concentration Mean (\pm S.D.) ($\mu\text{g}/\text{ml}$)	ME Mean (95% C.I.) ($\mu\text{g}/\text{ml}$)	MAE Mean (95% C.I.) ($\mu\text{g}/\text{ml}$)	RMSE ($\mu\text{g}/\text{ml}$)
PPK Method	10.43 \pm 5.19	8.52 (\pm 4.34)*NS	-1.91 (-2.15, -1.68)	2.93 (2.80, 3.05)	3.21
Calculated using individual parameters		9.62 (\pm 4.95)*NS	-0.81 (-0.96, -0.67)	1.38 (1.28, 1.49)	1.74

ME: mean prediction error (a measure of bias), MAE: mean absolute prediction error (a measure of accuracy), RMSE: root mean squared prediction error (a measure of precision). *NS; Not statistically Significant. Measured and predicted VCM concentrations were compared by t-test to determine. p values of less than 0.05 were considered to be significant. S.D.; Standard deviation

研修医レポート

臨床研修医

1年次 堀 真美子



こんにちは。研修医一年目の堀真美子と申します。愛知医科大学を卒業し、四月から熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。研修がスタートしてからあっという間に三ヶ月が経過しました。私は最初外科からローテートが始まり、現在は血液内科でお世話になっております。外科では早朝からのカンファレンス、手術、回診、病棟処置など毎日を忙しく過ごしておりましたが、看護師の皆様をはじめ、指導医の先生、同僚に様々なことを教えていただき、患者様に対する接遇、連携、チーム医療の大切さを学ぶことができたと思います。また、病棟での処置、手術に

参加させていただくことで縫合、創傷部の洗浄、輸液管理、術後管理といった基本的な手技・知識を身につけることが出来、とても充実した日々でした。

県内で唯一移植が行われている当院の血液内科では、多くの症例を担当させていただくことで、血液疾患を十分に学ぶ機会に恵まれたと思います。まだ、病棟業務をすばやくこなすことができないため、周囲のスタッフにご迷惑をおかけすることが多々あり、申し訳なく思っておりますが、少しでも早く成長することが恩返しと思ひ必死に働いています。

救急外来では、ウォークインの患者様を診察をし、身体所見をとり、自分で必要な検査を考えオーダーすることで、医師としての自分の技術を磨くことができます。ときには上級の先生方に厳しく指導を受けることもあります。積極的に医療に参加させていただけるので多くのことを現場で学ぶことができます。

研修医同士仲もよく、お互いに学んだことを意見交換したり、必要な知識を共有し助け合いながらとても楽しく充実した日々を過ごさせていただいております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

臨床研修医

1年次 今村 友彦



研修医1年目の今村友彦です。私は呼吸器内科からローテートさせていただき、現在救命救急部で研修させていただいております。毎日の先生方の熱心な指導に大変感謝しつつ、めまぐるしい日々の中、多くのことを学ばせていただいております。

この3ヶ月間で非常に強く感じたことは、指導医の先生方の横でできるつもりになっている自分の存在です。教えていただいたことで自分でもできるような錯覚にとらわれ、結局一人では何もできないということ

がたくさんありました。指導医の先生がどういう思考過程でどのような鑑別疾患をあげ、なぜこの検査をオーダーしたのかを振り返り、同様の症例のときには自分でその思考過程を組み立てることができるようになることが研修医の最低条件だということを肝に銘じて、これからの研修で積極的に挑戦していきたいと思ひます。また、救命救急部の研修の中では、一瞬の判断が求められる救急外来での初期対応で、患者さんの身体診察を行いながら自分が今何をすべきかを常に考え、手足を止めることなく積極的に診療にあたることを心がけていこうと思っております。

まだまだ未熟者で、これからの研修の中で先生方やスタッフの方々に多大なるご迷惑をおかけすると思ひますが、貴重な2年間の研修を一生懸命頑張っ参りたいと思っておりますので、宜しく願い申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

研修のご案内

第151回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成23年 8月 8日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「皮膚炭疽症を疑われた症例について」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

児玉 章子

4. ミニレクチャー「GERDとPPIについて」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

村尾 哲哉

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第120回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成23年 8月 18日(木) 19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「皮膚炭疽症を疑った敗血症を伴った高浸透圧高血糖症候群の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

園田 隆賀

2. 「糖尿病地域連携パスを利用したアウトカム評価」

天草地域医療センター

平島 義彰 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第113回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成23年 8月 24日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「精神科救急」

国立病院機構熊本医療センター精神科医長

渡邊健次郎

救急救命士、救急隊員を含めた全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

第12回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座1.5単位認定）

この度、第12回二の丸肝臓談話会を下記の要綱にて開催したいと存じます。
何かとご多忙中とは思いますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

座長：新町いえむらクリニック 院長 家村 昭日朗 先生

慢性肝炎クリティカルパスの現状と肝がん医療連携

1. 「肝がん地域医療連携の現状と課題」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

杉 和洋

2. 「地域医療連携クリティカルパス～外来での取り組み」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科外来看護師

鞭馬 ゆき

ドクター秘書

小島有紀子

小田代志栄

3. 「宮崎医療センター病院における肝疾患クリティカルパスの効果」

宮崎医療センター病院 消化器肝臓病センター病棟看護師長

乙守 篤 先生

日時：平成23年 8月 22日(月) 19:00~20:30

場所：国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

2011年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室	その他
1日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
2日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
3日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
4日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
5日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
6日(土)	13:30~17:00 第82回救急蘇生法講座	講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 他	
8日(月)	19:00~20:30 第151回月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
9日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
10日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
11日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
12日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
15日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
16日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
17日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
18日(木)		19:00~20:45 第120回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
19日(金)	19:30~21:00 臨床口腔外科講演会 「明日行う小手術のヒント集」 九州歯科大学第1口腔外科学教室助教 土生 学	15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「慢性肝炎」	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
22日(月)	19:00~20:30 第12回二の丸肝臓談話会		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
23日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
24日(水)	18:30~20:00 第113回救急症例検討会 「精神科救急」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
25日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
26日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
29日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
30日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
31日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消化器病センター読影室 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)